

明治の学舎を今に残す千葉県立佐倉高等学校記念館

伝えたい千葉の産業技術 100 選

登録番号	第 0 8 4 号
名称（型式等）	千葉県立佐倉高等学校記念館
所在地	千葉県佐倉市鍋山町 18
設立（竣工）年	明治 43（1910）年

選定理由

千葉県立佐倉高等学校記念館は、明治 43(1910)年、佐倉藩最後の藩主、堀田正倫公の援助により、千葉県立佐倉高等学校本館として建設された洋風木造校舎です。前身は、佐倉藩の藩校として創立された佐倉学問所です。明治 42（1909）年 12 月 23 日に地鎮祭、翌年 2 月 5 日に上棟式が行われ、4 月 28 日には新校舎で初めての授業が行われました。その後、11 月 10 日に落成式が挙行されました。佐倉高校ではこの 11 月 10 日を「創立記念日」と定めています。

設計は久野節が中心となって行いました。久野節は、明治 40(1907)年に東京帝国大学建築家を卒業後、千葉県の技師となりました。記念館は 27 歳の時の設計です。同 44(1911)年に鉄道院に移り、大正 9(1920)年に鉄道省の初代建築課長となりました。停車場建築の第一人者として知られ、現存する主な建造物としては、東武浅草駅、南海ビルディング（難波駅）、近鉄宇治山田駅などがあります。

建築構造は洋風木造の 2 階建てで、基礎は煉瓦を積んで土台石を廻らし、壁はドイツ下見板（外壁の板材を横に張り、板の合わせ目に目地をつくり、仕上がり面を垂直にする仕上げを行った壁面）が張り廻らされ、窓は上げ下げ窓となっています。屋根は寄棟造でスレート葺きでしたが、重量軽減のため銅板葺となりました。東西に長く南向きに建てられ、西端及び東端は北側に折れて教室が設けられていました。正面 1 階の中央西寄りにポーチを付けて玄関とし、その両脇の 2 階部分は少し張り出して搭状に造り、ドームを載せ、玄関ポーチの欄間には桜の花の透かし彫りを入れています。屋根の棟には、玄関の上に小さな塔屋（サイレン塔）を載せ、軒先には東西両端にハンマービーム（壁面の上端などで梁を張り出しアーチ加工して支える手法）で飾り破風を設けています。左右対称な造りで、細部にまで優れた意匠を施しています。館内には、旧講堂にあったシャンデリアが移設された応接室、歴史を刻んできた木製の廊下や階段、机、椅子などがあります。明治後期の洋風学校建築の特徴を現在に残し、県内の高等学校で唯一、現在も使用されている明治期の木造校舎です。在校生・卒業生の心の拠り所であり、地域の人々に親しまれています。平成 17(2005)年 7 月 12 日、国指定の「登録有形文化財（建築物）」に登録されました。



正面から見た記念館



桜の透かし彫り